



2013年度を起点とした中期成長戦略について

代表取締役社長
長谷川 閑史

2013年5月9日

武田薬品工業株式会社

目次



- 2012年度の振り返り
- 2012年度実績、2013年度の業績見通しと持続的成長目標
- 2020年におけるタケダのありたい姿 — ビジョン 2020
- 中期成長戦略の方針
 - Globalization
 - Scientific Innovation
 - Business Process Innovation (Non-Scientific Innovation)
 - Diversity
- 財務戦略



2012年度の振り返り

2012年度の振り返り(成果と課題)



成果

「革新への挑戦(Innovation)」と「活力ある企業文化の創造(Culture)」を通じて「持続的な成長(Growth)」を達成するという経営方針に沿った取り組みを着実に遂行

Innovation

- パイプライン数、およびPh-3課題の割合が医薬品業界トップクラスに
- 日米欧における順調な承認申請を実現
(日)SGN-35、ATL-962、(米)LuAA21004、(欧)アログリブチンファミリー*、ルラシドン、MLN0002等
- 画期的な創薬基盤技術を獲得(LigoCyte社：ワクチン作製技術、Envoy社：bacTRAP技術)
- オープンイノベーション推進(The BC Cancer Agency、Advinus社、Resolve社)

Culture

- 新たな事業運営体制であるCCO、CMSO体制の定着・強化(販売機能と研究開発機能のガバナンス強化)
- 優れた人材の獲得・育成とダイバーシティの推進、全組織の活性化

Growth

- 新興国市場における売上伸長と戦略的投資の実施:(ブラジル)マルチラブ社買収、(露)ヤロスラブリ工場竣工、(中国)事業運営体制強化
- 米国における痛風フランチャイズ強化:(米)URL社買収によるコルクリス獲得
- 日米欧における新製品の承認・上市:(日)アジルバ、ロトリガ、(米)ネシーナファミリー、(欧)アドセトリス等
- 進出地域の更なる拡大(エクアドル、ペルー)

課題

- ✓ アクセス特許満了後の売上回復
- ✓ 後期開発パイプラインの確実な上市
- ✓ グローバル競争を勝ち抜くことができる強靱かつ効率的なオペレーティングモデルの構築

*アログリブチン、アログリブチン/メホルミン合剤、アログリブチン/アクセス合剤



2012年度実績、2013年度の業績見通しと持続的成長目標

2012年度実績と2013年度の業績見通し



単位：億円

	2011年度 (実績)	2012年度 (実績)	2013年度 (見込)	
売上高	15,089	15,573	15,900	
研究開発費	2,819	3,243	3,250	
営業利益	2,650	1,225	1,400	
営業利益(特殊要因*1除き)	4,145	2,675	2,800	
純利益	1,242	1,312	950	
純利益(特別損益・特殊要因*2除き)	2,482	1,846	1,850	
EBITDA(特別損益除き)*3	4,226	3,239	3,400	
EPS	157円	166円	120円	
EPS(特別損益・特殊要因*2除き)	314円	234円	234円	
為替レート	USD	79円	82円	90円
	EUR	109円	106円	120円

*1: 営業利益に係る特殊要因: 企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費、および棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化

*2: 純利益、EPSに係る特殊要因: *1に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

*3: 経常利益に、企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費と営業外費用、減価償却費および支払利息を加えて計算



2020年におけるタケダのありたい姿 — ビジョン 2020



Better Health, Brighter Future

“病気に苦しむ患者さんに、人生のかけがえのない時間を少しでも取り戻していただきたい”創業から230年以上にわたり、タケダはその想いのもと、革新的な新薬の創出を通じて社会に貢献してきました。そしてこれからも、世界のより多くの人々がそれぞれの人生を豊かに過ごせるよう予防から治療・治癒にわたる医療の多様なニーズに応える新しい解決方法を提供していくことが私たちタケダの使命です。

“世界の国々や地域に根を下ろし、それぞれ異なる真の医療ニーズを理解する” “つねに社会に奉仕する気持ちを忘れず、緊迫感とスピード感

を持ち、どこよりも高い効率性を発揮して業界をリードする最適な答えを提供する”ダイバーシティが活きる組織の力を「Global One Takeda」として結集させ、医療の未来を変革する努力を、私たちタケダは続けていきます。

医療に対する飽くなき情熱と人々の生命に貢献するという揺るぎない信念を持ち、世界中の人々がより健康で明るく過ごせる新たな230年を切り拓いていきます。

Our Business
**Committed to
Improving Health**

すべては人々の健康のために

Our Organization
**Strength
from Diversity**

ダイバーシティを力に

Our People
**Powered
by Passion**

情熱を原動力に



中期成長戦略の方針

新興国市場における中期成長戦略



Globalization

市場ニーズに合致した多数の新製品の上市と市場浸透を着実に推進し、投資効率を追求した販売戦略を実行することで、市場を上回る売上成長を引き続き実現、収益性を改善して全社を牽引

主力製品の売上維持・拡大

＜主力製品の2012年度売上実績＞ (億円)

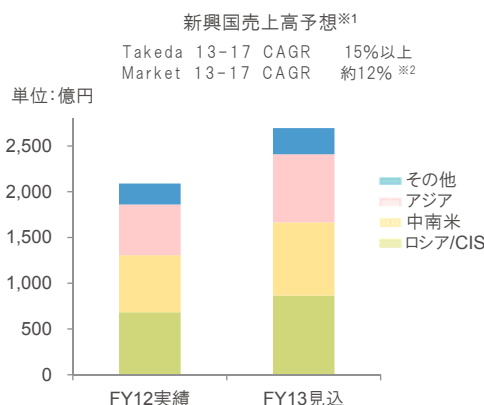
製品名	適応症	売上高
パントプラゾール	消化性潰瘍	307
アクトベジン	脳血管障害、脳卒中	191
コンコール	高血圧症	113
マグニル	心血管疾患予防	79
ネオサルディナ	頭痛	66

新製品の確実な上市と市場浸透

＜2013年度中の予定上市品目＞

新製品	
アログリプチン TAK-491 TAK-390MR アドセトリス メパクト etc.	<ul style="list-style-type: none"> 将来成長が期待される新製品の確実な上市と市場浸透を実現する効率的な販売戦略の実施 地域レベルにおける事業開発の検討

新興国の営業利益率(本社経費配賦前)
約30%⇒2017年度40%台へ拡大



※1 ロイヤリティ・役員収益除き
※2 Copyright 2013 IMS Health データソース:IMS MP2012-2016に基づく当社分析 無断転載禁止

新興国市場における中期成長戦略



Globalization

中国



売上高 13-17 CAGR: 25%以上※1 中国市場 13-17 CAGR: 約19%※2

- アログリプチン、ダクサスの確実な上市
- 既存品(ウリナスタチン、パントプラゾール、リュープロレリン)の売上最大化
- 医薬品の流通・販売経路の新たな仕組みを確立、高い収益性を生み出す事業体制の構築

ロシア/CIS



売上高 13-17 CAGR: 13%以上※1 ロシア/CIS市場 13-17 CAGR: 約12%※2

- 償還医薬品および非償還医薬品でバランスの取れた製品ポートフォリオを構築
- 既存製品の売上最大化および新製品(TAK-491、アドセトリスなど)の確実な上市

ブラジル



売上高 13-17 CAGR: 13%以上※1 ブラジル市場 13-17 CAGR: 約10%※2

- マルチラブ社の製品および販売基盤を最大限に活用
- 新製品(TAK-491、アログリプチンなど)の確実な上市
- 大都市地域での競争力を維持しながら、経済成長が著しい地方都市における競争力強化

※1 ロイヤリティ・役員収益除き
※2 Copyright 2013 IMS Health データソース:IMS MP2012-2016に基づく当社分析 無断転載禁止

日本市場における中期成長戦略



Globalization

新製品の成長を加速する新たなコマースモデルの構築による国内シェアNo.1の堅持

戦略製品の早期売上最大化

- 生活習慣病領域における新製品の販売強化
(ネシーナファミリー、アジルバ、ロトリガ)
- 心血管イベント発症抑制とその先にある認知症予防を目指した、多様なラインナップを活かした新たな価値の提供



新たなコマースモデルの構築

- MRの生産性をさらに高めるタケダの強みを活かした販売体制の推進
- 新製品の市場浸透を早期に成功させる販売モデルの構築
- ジェネラルMR体制をベースとしたハイブリッドMR体制への進化

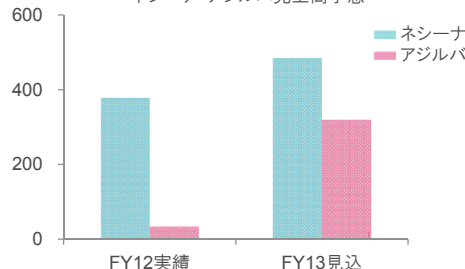
充実したパイプラインによる成長の加速

- 日本市場特有のニーズに応じたパイプライン: ATL-962、TAK-438、SYR-472等
- グローバルパイプライン: Lu AA21004、TAK-875、TAK-700等

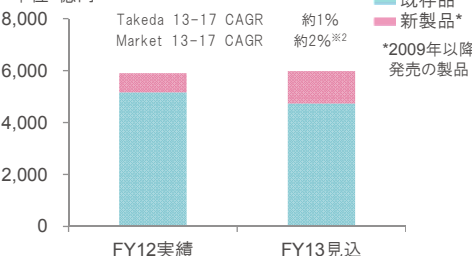
国内リーディングカンパニーとしてのパートナーシップの強化

- 行政、アカデミアとの連携による新たな疾患啓発の推進
- 新規アライアンス等他社との連携強化
- 特約店との連携による情報活動のさらなる強化

単位:億円 ネシーナ・アジルバ売上高予想



単位:億円 国内売上高予想^{※1}



※1 ロイヤリティ・役員収益除き
※2 Copyright 2013 IMS Health データソース:IMS MP2012-2016に基づく当社分析 無断転載禁止

米国市場における中期成長戦略



Globalization

製品ポートフォリオの充実と最適な販売戦略の立案・実行により領域フランチャイズを強化

製品ポートフォリオの充実 (主な既存品と今後の新製品)

代謝性疾患	循環器系疾患	消化器系疾患	癌
ネシーナファミリー ユーロリック コルクリス コントレイブ TAK-875	イダーピファミリー 中枢神経系疾患 ロゼレム LuAA21004	デクスラント アミティーザ MLN0002	ベルケイド TAK-700 MLN9708 MLN8237

最適な販売戦略の立案・実行

TPUSA社

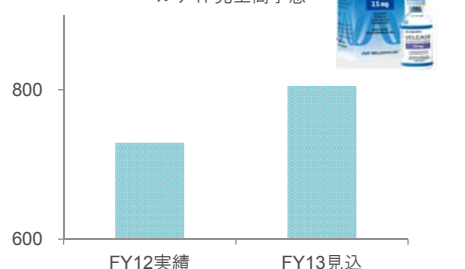
ネシーナファミリーの確実な立ち上げ、ユーロリック/コルクリスのシナジー創出、デクスラントの売上拡大や、新製品となるLuAA21004、コントレイブ、MLN0002、TAK-875等、を視野に新たな体制を構築。



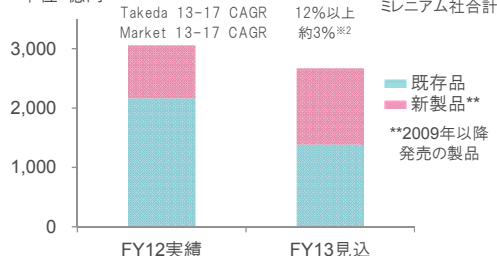
ミレニウム社

ベルケイドの売上伸長、TAK-700、およびMLN8237のグローバル上市の早期実現、MLN9708の早期上市によるプロテアソーム阻害剤フランチャイズの強化

単位:億円 ベルケイド売上高予想



単位:億円 米国売上高予想^{※1*}



※1 ロイヤリティ・役員収益除き
※2 Copyright 2013 IMS Health データソース:IMS MP2012-2016に基づく当社分析 無断転載禁止



Globalization

Scientific Innovation

Non-Scientific Innovation

Diversity

安定的に売上貢献するブランドジェネリックなどの売上維持・拡大に加え、プライマリケア事業とスペシャリティケア事業の強化でナイコメッド社統合後の高収益化を実現

ブランドジェネリックなどの売上維持・拡大

売上貢献の大きいパントプラゾールなどのブランドジェネリック、リュープロレリンをはじめとする成熟品の売上維持・拡大

プライマリケア事業の基盤強化

新製品・パイプライン

アログリブチンファミリー
TAK-390MR
TAK-491 ファミリー
TAK-875 etc.

アログリブチンファミリー、TAK-390MR等の確実な上市と効率的な販売戦略の推進

スペシャリティケア事業の展開を加速

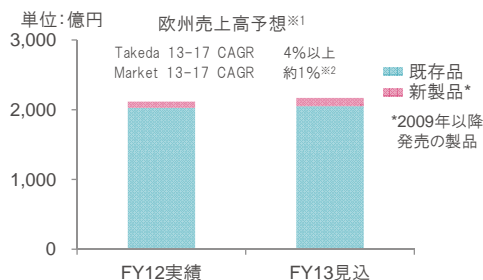
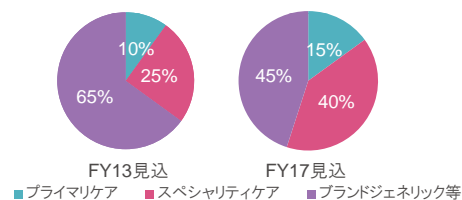
新製品・パイプライン

アドセトリス
メバクト
MLN9708
TAK-700
ルラシドン
MLN0002
ダクサス etc.

ミネリアム社との連携によりアドセトリスなどのオンコロジー製品の早期市場浸透を実現
ダクサスの販売戦略見直しによる売上伸長

各国・地域の市場環境に応じた製品ポートフォリオと高い収益性を獲得できる事業体制を整備

欧州領域別売上高比率



※1 ロイヤリティ・役員収益除き、ロシア/CIS除き
※2 Copyright 2013 IMS Health データソース:IMS MP2012-2016に基づく当社分析 無断転載禁止

R&D戦略 重点領域と開発後期パイプライン数



Globalization

Scientific Innovation

Non-Scientific Innovation

Diversity

代謝性・循環器系疾患

Phase III : 2
Filed : 8

癌

Phase III : 13
Filed : 2

中枢神経疾患

Phase III : 5
Filed : 2

消化器・腎臓系・
その他疾患

Phase III : 1
Filed : 5

ワクチン

Phase III : 1
Filed : 1

免疫・呼吸器系疾患

Phase III : -
Filed : 1

ライフサイクルマネジメントと合剤を含む



Scientific Innovation

	FY13	FY14	FY15	FY16-17
JP	ATL-962 SGN-35 タケプロン/LDA BLB-750 TAK-536/CCB	SYR-472 LuAA21004 TAK-438	MLN9708 TAK-875 TAK-700 TAK-816 TAP-144SR/6M	MLN0002 TAK-385
US	Lu AA21004	TAK-700 MLN0002	MLN9708 MLN8237	TAK-875 TAK-375SL
EU	アログリプチンファミリー* ルラシドン TAK-390MR	TAK-491/CLD MLN0002	MLN9708 TAK-700	TAK-875
EM	アログリプチン、TAK-491、SGN-35、メパクト、TAK-375、TAK-390MR、ダクサスなど			

Business Process Innovationへの取り組み (Non-Scientific Innovation)



Non-Scientific Innovation

タケダは、グローバル企業として、継続して、ビジネスプロセスの改善や新しいビジネスモデルの構築を通じ、ビジネスプロセス・イノベーションを追求

Project Summit は、グローバル化の次のフェーズとして、効率性を追求するための全社を挙げた戦略的取り組み。グローバル製薬企業として、多様な人々の健康へのニーズに応えるために必要なアプローチ

対象

グローバルにおける以下の機能：セールス/マーケティング、製造/サプライチェーン、研究/開発、一般管理関係

ゴール

- 生産性と利益率を向上させ、強靱かつ効率的なオペレーティングモデルを実現すること
- 持続的成長に向けて必要な投資を継続すること
- Core Earningsの売上高比率を17年度までに25%にすること



Diversity

国籍・年齢・性別・文化・思想など様々なバックグラウンドを持つ従業員が、「ビジョン 2020」のもとで、一体となって業務に取り組み、議論を戦わせることで、創造性が触発されイノベーションが生まれる。また、互いに理解し、尊重しあうことで組織力がさらに高まり、グローバルな競争力が向上する。

創造的な思考を産む企業文化を醸成し、新しい価値観を経営に反映

グローバル競争への対応

継続的なイノベーションの創造

企業競争力向上のためのダイバーシティ促進
グローバルで多様な人財の育成・活用

真のグローバル製薬企業へ
着実に進展/変革していく



財務戦略



中期成長戦略

売上高の伸長、営業利益の増加
バランスシートの最適化

フリーキャッシュフローの最大化

柔軟な財務戦略

継続的な
成長投資

安定的な
配当
13-15年度
180円を継続

着実な
有利子負債
の返済

健全で強固な財務基盤



***Better Health,
Brighter Future***



2012年度連結業績の概要および 2013年度連結業績の見通しと持続的成長目標

経営管理部長 谷口 岩昭

2013年 5月 9日

武田薬品工業株式会社



2012年度 連結業績の概要

2012年度 連結業績



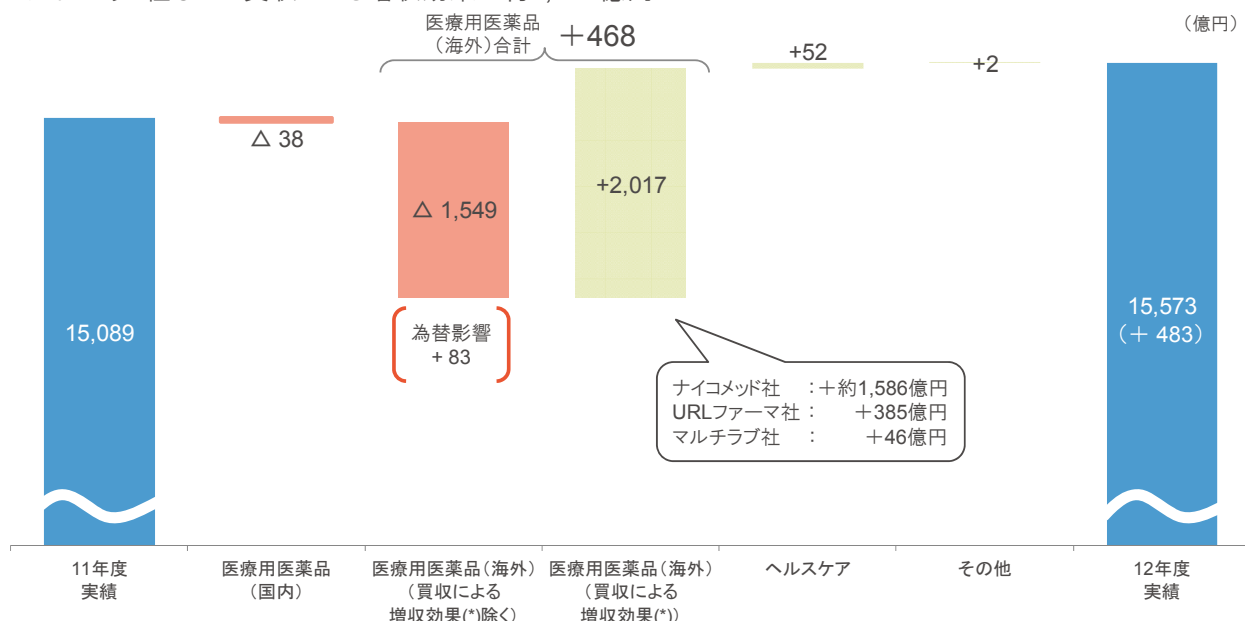
	11年度実績	12年度実績	対前期増減		為替影響除き
	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)
売上高	15,089	15,573	+ 483	<+ 3.2>	+ 400
売上総利益	10,757	11,096	+ 339	<+ 3.2>	+ 267
特殊要因(*1)除き	11,313	11,171	Δ 141	<Δ 1.3>	Δ 214
一般管理販売費	5,288	6,628	+ 1,340	<+ 25.3>	+ 1,282
特殊要因(*2)除き	4,351	5,257	+ 906	<+ 20.8>	+ 868
研究開発費	2,819	3,243	+ 424	<+ 15.0>	+ 357
営業利益	2,650	1,225	Δ 1,425	<Δ 53.8>	Δ 1,372
特殊要因(*3)除き	4,145	2,675	Δ 1,470	<Δ 35.5>	Δ 1,438
経常利益	2,703	1,132	Δ 1,572	<Δ 58.1>	Δ 1,516
特別損益	Δ 179	165	+ 344	—	+ 344
純利益	1,242	1,312	+ 71	<+ 5.7>	+ 91
特別損益、特殊要因(*4)除き	2,482	1,846	Δ 636	<Δ 25.6>	Δ 630
EBITDA(特別損益除き)	4,226	3,239	Δ 988	<Δ 23.4>	
EPS	157円	166円	+ 9円	<+ 5.7>	
特別損益、特殊要因(*4)除き	314円	234円	Δ 81円	<Δ 25.6>	
為替レート	USD	79円	82円	+ 3円	
	EUR	109円	106円	Δ 3円	

*1: 売上総利益に係る特殊要因：企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化
 *2: 一般管理販売費に係る特殊要因：企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費
 *3: 営業利益に係る特殊要因：*1および*2
 *4: 純利益、EPSに係る特殊要因：*1、*2に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

売上高の増減内訳【セグメント別】



医療用医薬品(海外)合計は468億円の増収
 ナイcomed社などの買収による増収効果は約2,017億円



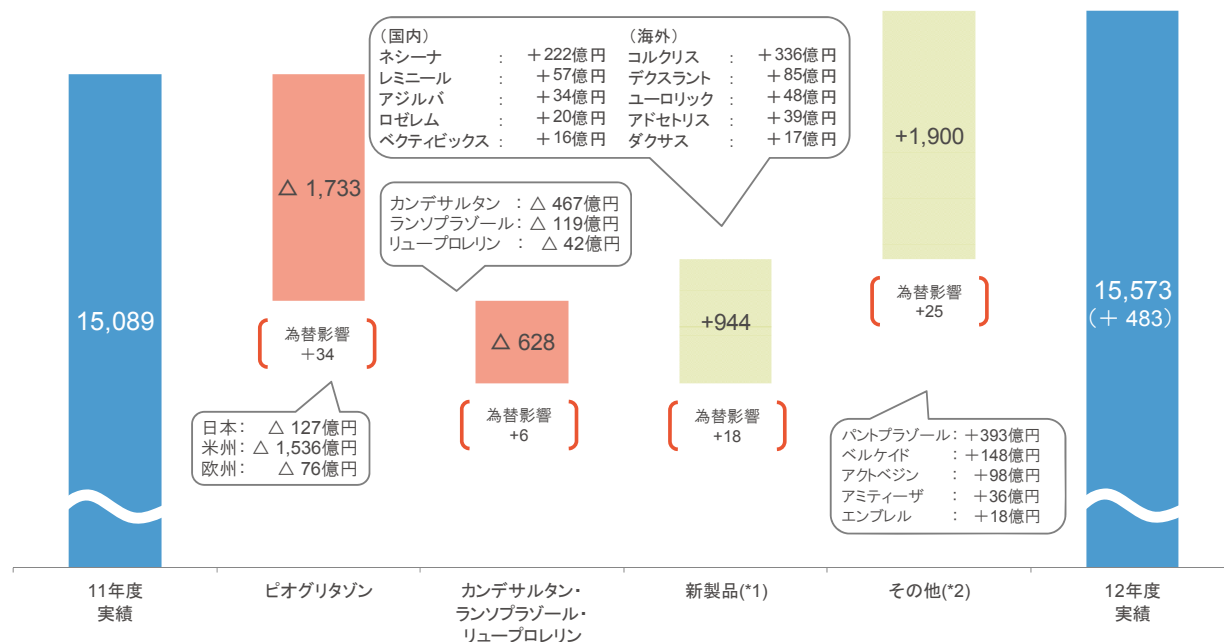
(*)：ナイcomed社買収による増収効果 … 12年度4月から9月の同社事業の概算売上高(買収年月：11年9月末)。11年4月から9月は非連結であるため、連結対象期間の差である12年4月から9月をもって同社の買収による増収効果としている。
 URLファーマ社買収による増収効果 … 12年6月以降の同社事業の売上高(買収年月：12年6月)
 マルチラブ社買収による増収効果 … 12年7月以降の同社事業の売上高(買収年月：12年7月)

売上高の増減内訳【品目別】



ピオグリタゾン、カンデサルタンなどの成熟品の減収を、ネシーナをはじめとする新製品やベルケイド等の伸長、ナイコメッド社などの買収効果によりカバーし増収

(億円)



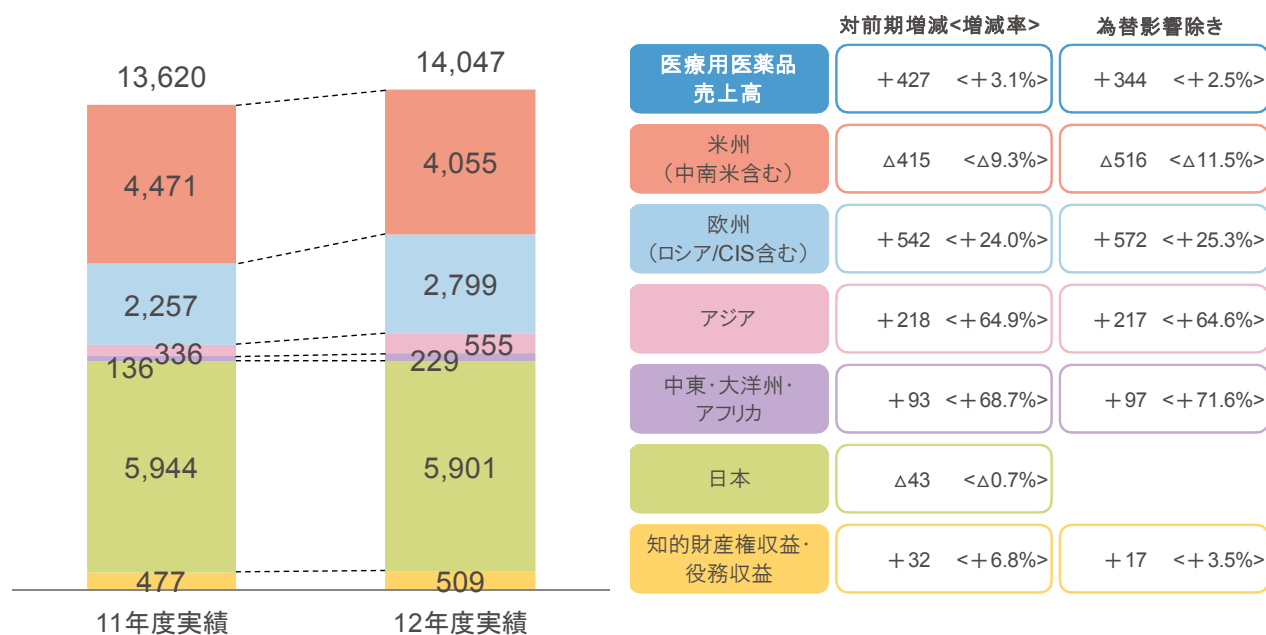
*1: 09年以降に発売した製品(既存品との合剤・剤型変更を除き、買収した会社の製品を含む)の増減
 *2: 主として11年度以降に買収した会社の新製品以外の製品による増収効果やベルケイド等の既存品の増減

医療用医薬品売上高【地域別】



特に欧州・アジア等が売上伸長を牽引

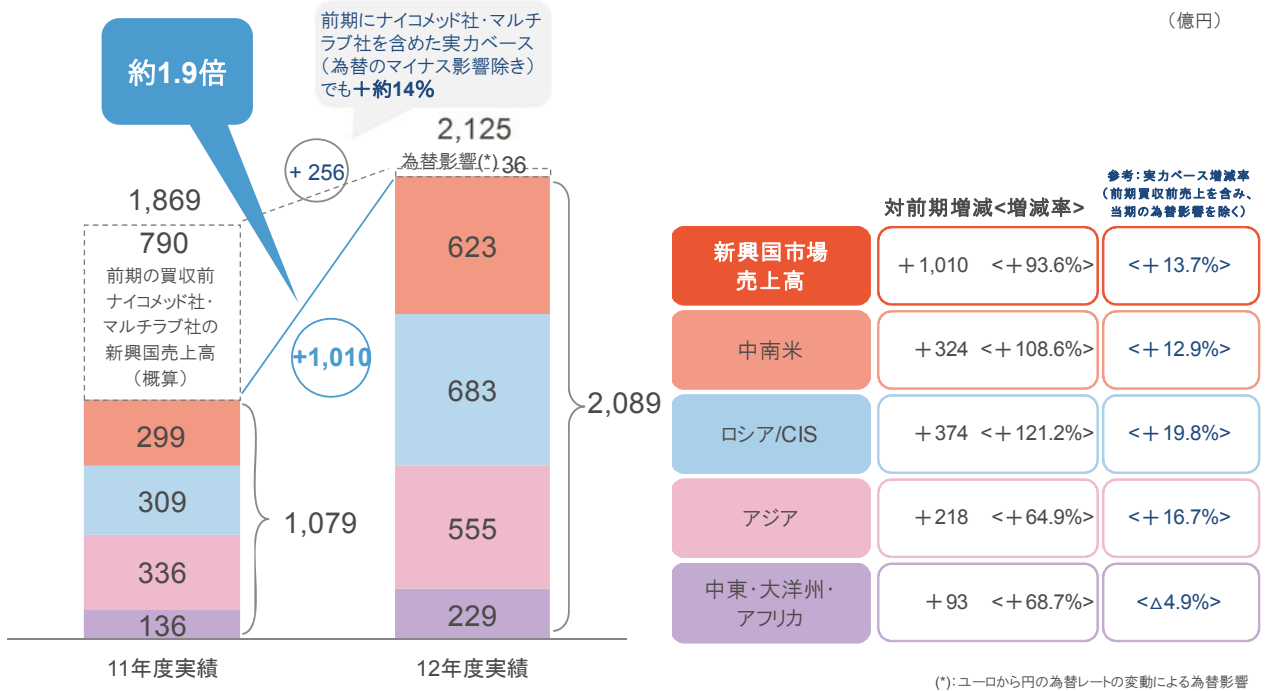
(億円)



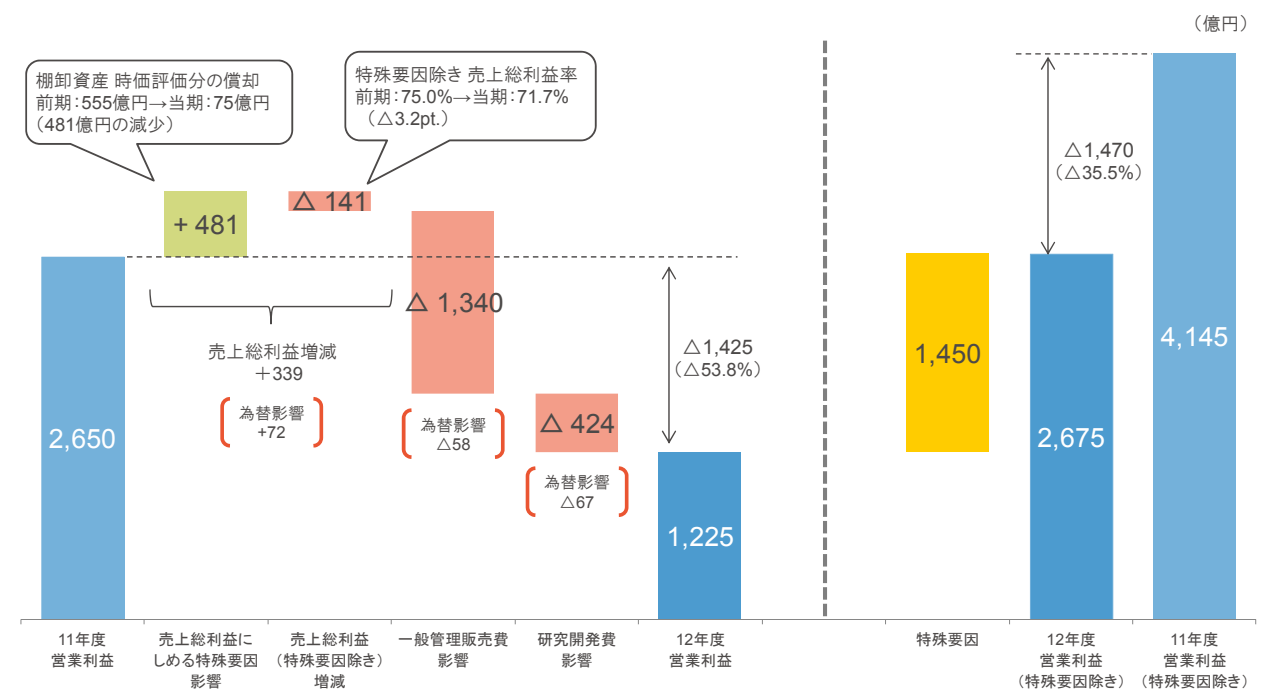
医療用医薬品売上高 【新興国市場】



ナイcomed社・マルチラブ社の買収効果により新興国市場での売上高は約1.9倍と大幅に伸長

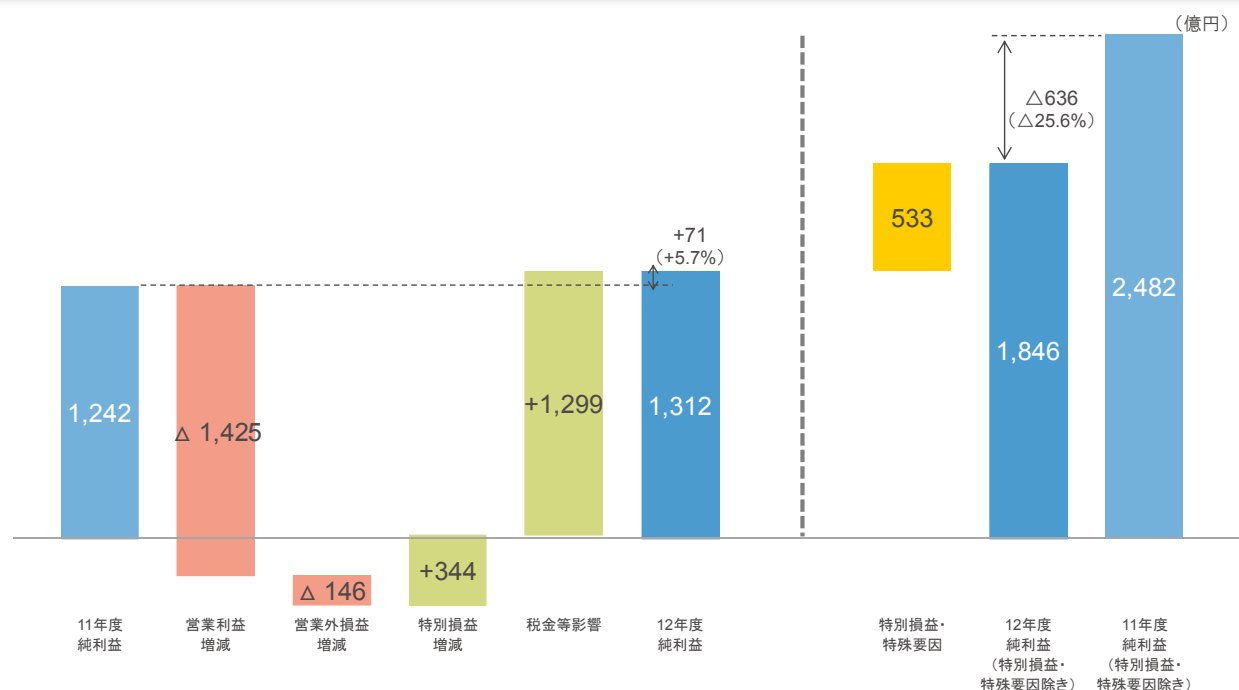


営業利益の増減内訳



- > 一般管理販売費の増加（損）1,340億円：買収に伴う発生費用の増加や、のれん・無形固定資産償却費の増加
- > 研究開発費の増加（損）424億円：開発後期のパイプラインを中心とした開発費の増加

純利益の増減内訳



- ▶ 特別損益の増加 +344億円：11年度…特別損益(純額) 179億円の損 (特別利益 176億円、特別損失355億円)
12年度…特別損益(純額) 165億円の益 (特別利益 950億円、特別損失785億円)
- ▶ 税金等の減少(益) +1,299億円：12年度…プレバシッド取引に係る還付税金(益)574億円

2012年度 特別損益の内訳



項目	金額 (億円)	内容
<特別利益>	950	
投資有価証券売却益	531	株式売却
政府助成金	228	新型インフルエンザワクチンの開発・生産体制整備に関する政府からの助成金
法人税等還付加算金	151	プレバシッド取引の還付税金に係る還付加算金 (還付税金574億円は税金等にマイナスとして計上)
固定資産売却益	40	主として土地・建物等の遊休不動産の売却
<特別損失>	785	
減損損失	436	無形固定資産(ダクサス): 売上見込の下方修正による価値評価額減少 土地・建物等 : 遊休化 他
事業構造再編費用	252	海外子会社における合理化費用
製品自主回収関連損失	96	米国におけるオモンティスの自主回収に伴い発生した損失
特別損益合計	益 165	

キャッシュフローの状況



	11年度 実績 (億円)	12年度 実績 (億円)
営業活動によるCF	3,366	3,077
税金等調整前当期純利益	2,525	1,297
減価償却費(無形固定資産償却費を含む)	1,280	1,667
減損損失(特別損失)	—	436
のれん償却費	222	344
運転資金増減	647	123
法人税等の支払額(還付税金・還付加算金を含む)	△1,521	345
投資活動によるCF	△10,940	△1,114
有形固定資産の取得による支出	△619	△782
投資有価証券の売却および償還による収入	1	586
子会社株式の取得による支出	△10,400	△863
財務活動によるCF	3,938	△1,506
短期借入金の純増減額	2,398	△2,429
長期借入れによる収入	1,100	3
社債の発行による収入	1,896	2,380
配当金の支払額	△1,420	△1,421
現金及び現金同等物にかかる換算差額	△549	456
期中のCF	△4,185	913
現金及び現金同等物期末残高	4,542	5,456

2012年度 連結業績【対公表予想】



	公表予想 (2月公表) (億円)	実績 (億円)	対公表予想増減 (億円)	<%>	為替影響除き (億円)
売上高	15,500	15,573	+73	<+0.5>	△15
研究開発費	3,100	3,243	+143	<+4.6>	+112
営業利益	1,600	1,225	△375	<△23.4>	△346
特殊要因(*1)除き	3,050	2,675	△375	<△12.3>	△355
経常利益	1,500	1,132	△368	<△24.6>	△337
特別損益	550	165	△385	<△69.9>	△385
純利益	1,550	1,312	△238	<△15.3>	△231
特別損益、特殊要因(*2)除き	1,900	1,846	△54	<△2.9>	△55
EBITDA(特別損益除き)	3,450	3,239	△211	<△6.1>	
EPS	196円	166円	△30円	<△15.3>	
特別損益、特殊要因(*2)除き	241円	234円	△7円	<△2.9>	
為替レート	USD	82円	82円	+1円	
	EUR	105円	106円	+1円	

*1: 営業利益に係る特殊要因 : 企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化、企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費
 *2: 純利益、EPSに係る特殊要因 : *1に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金



2013年度の連結業績の見通しと持続的成長目標

2013年度 連結業績の見通し



日本国内や新興国を中心とした売上高の伸長による粗利益の増加により、新興国における販売管理費増加を吸収し、営業利益は前年度を175億円上回る見込み

	12年度 (実績) (億円)	13年度 (見通し) (億円)	増減	
			(億円)	<%>
売上高	15,573	15,900	+ 327	<+ 2.1>
研究開発費	3,243	3,250	+ 7	<+ 0.2>
営業利益	1,225	1,400	+ 175	<+ 14.3>
特殊要因(*1)除き	2,675	2,800	+ 125	<+ 4.7>
純利益	1,312	950	Δ 362	<Δ 27.6>
特別損益、特殊要因(*2)除き	1,846	1,850	+ 4	<+ 0.2>
EBITDA(特別損益除き)	3,239	3,400	+ 161	<+ 5.0>
EPS	166円	120円	Δ 46円	<Δ 27.6>
特別損益、特殊要因(*2)除き	234円	234円	+ 1円	<+ 0.2>
為替レート	USD	82円	90円	+ 8円
	EUR	106円	120円	+ 14円

参考: 為替レート 1円変動影響	13年度(億円)	
	USD	EUR
売上高	37	42
営業利益	Δ9	2
純利益	Δ7	0

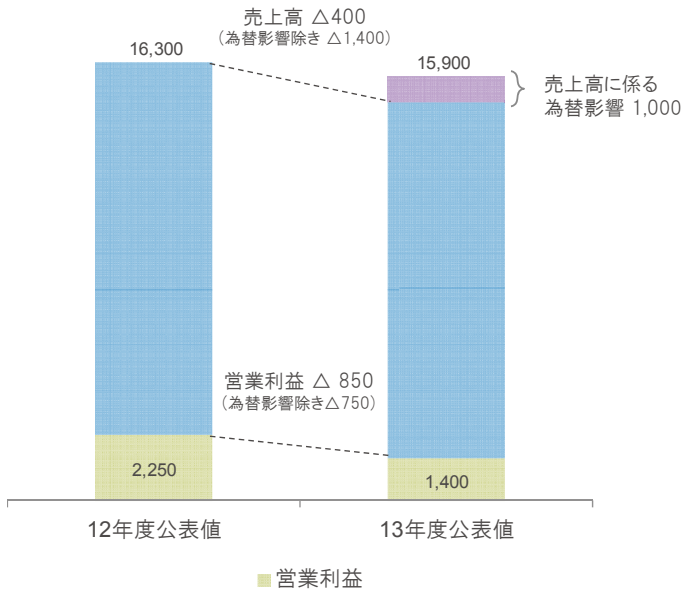
*1: 営業利益に係る特殊要因: 企業買収に起因する棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)の費用化、企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費
*2: 純利益、EPSに係る特殊要因: *1に加え、企業買収に起因する営業外費用、移転価格税制に係る還付税金

2013年度 連結業績の見通し 12-14年度中期計画における予想値との比較



FY13

(億円)



売上高

米国におけるオモンティスの回収影響(△500億円)に加え、日本や欧州での後発品浸透等の影響により、売上高は400億円低下。

営業利益

減収に加え、研究開発投資(3,000億円程度)の維持、新興国および新製品関連投資の維持により、営業利益は850億円低下。

前提為替レート(単位:円)	USD	EUR
12年度公表	80	105
13年度公表	90	120

(参考) IFRSの任意適用について



2014年3月期期末(13年度4Q)決算からIFRSを任意適用

IFRS適用の目的

- 欧米同業他社との財務情報の比較可能性の向上
- グループ内会計基準の統一による財務情報の均質化
- 資金調達の実施の拡大

▼IFRSベースの13年度業績見込み

(億円)	日本基準	IFRS	差額
売上高	15,900	15,900	—
研究開発費 <対売上高比率>	3,250 20.4%	3,350 21.1%	+ 100 +0.6pt
営業利益 <対売上高比率>	1,400 8.8%	1,550 9.7%	+150 +0.9pt
純利益 <対売上高比率>	950 6.0%	1,150 7.2%	+ 200 +1.3pt
EBITDA	3,400	3,700	+ 300
Core Earnings* <対売上高比率>	—	2,800 17.6%	—

日本基準/IFRS間の営業利益の差額(+150億円)について

- のれんの非償却化等の影響によりIFRSベースの営業利益は日本基準よりも150億円の改善(各差異の具体的な金額はAppendix 参照)

*Core Earnings とは

- IFRSのGAAPベースの営業利益から、企業買収に係る会計処理の影響や無形資産の償却および減損などの一時的要因を排除した定常的なビジネススペースの利益
- 欧米企業を中心に、本業のパフォーマンスを示す経営指標として広く採用・開示されている

中期成長戦略における到達目標



2013年度以降の持続的成長目標【日本基準ベース】

売上高	年平均成長率 一桁台半ばの成長	13-17年度
営業利益	年平均成長率 20%以上の成長	13-17年度
配当	年間180円を維持	13-15年度

さらに、持続的成長を可能にするイノベーションへの積極投資として、

研究開発費については、今後も、3,000億円程度を維持

持続的成長のための取り組み Project Summit

～強靱かつ効率的なオペレーティングモデルの構築を目指して～



セールス/ マーケティング	<p>製品の戦略立案・販売活動・活動支援を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グローバルでのブランドマーケティング推進 ▶ グローバル・リージョン・ローカルでの販売活動効率化 ▶ MR生産性の向上 ▶ 新製品の早期市場定着ための効率的な販売戦略の強化
製造/ サプライ チェーン	<p>費用対効果を改善するために旧ナイcomed社の インフラ・機能を有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 製造ネットワークの最適化 ▶ グローバルでの原材料調達 ▶ サプライチェーンの統合
研究/開発	<p>各拠点でのR&D活動の効率性を追求し、 イノベーションを創出するための最適な投資を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ オペレーションの効率を最大化するための研究開発機能の最適化 ▶ 研究開発の叡智を集結して費用対効果を改善
一般管理	<p>分散した一般管理機能・プロセスを グローバルに効率的なモデルに転換</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グローバル統括機能の設置(財務、IT、人事等) ▶ あらゆる機能・事業領域でのグローバルな間接材集中購買の推進 ▶ グローバルの業務プロセスの標準化 ▶ グローバルなITシステム・プロセスの構築

Core Earnings
売上高比率を
17年度までに

25%

13年度見込
17.6%



APPENDIX

医療用医薬品主要品目別売上高推移



	主要 販売地域	09年度実績	10年度実績	11年度実績	12年度実績	対前期増減	
		(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	<%>
リュープロレリン	全世界	1,204	1,164	1,207	1,165	△ 42	<△ 3.5>
ランソプラゾール	全世界	2,161	1,336	1,221	1,102	△ 119	<△ 9.7>
カンデサルタン	全世界	2,183	2,180	2,163	1,696	△ 467	<△ 21.6>
ピオグリタゾン	全世界	3,833	3,879	2,962	1,229	△ 1,733	<△ 58.5>
エンブレル	日本	323	384	414	432	18	<+ 4.3>
ネシーナ	日本	—	16	155	378	222	<+ 143.4>
ベクティビックス	日本	—	94	172	188	16	<+ 9.5>
アミティーザ	米国	198	186	187	223	36	<+ 19.4>
バルケイド	米国	462	508	581	729	148	<+ 25.4>
ユーロリック	米国	44	91	129	177	48	<+ 37.3>
デクスラント	米国	85	181	242	327	85	<+ 35.3>
コルクリス (*1)	米国	9	126	368	407	39	<+ 10.5>
パントプラゾール (*2)	欧州/ 新興国	1,583	1,056	826	780	△ 46	<△ 5.6>
アクトベジン (*2)	欧州/ 新興国	142	169	186	196	10	<+ 5.4>
カルシウム (*2)	欧州/ 新興国	141	149	157	154	△ 3	<△ 1.9>
タコシール (*2)	欧州/ 新興国	128	129	138	132	△ 6	<△ 4.1>
ダクサス (*2)	欧州/ 新興国	—	4	24	30	6	<+ 24.3>
参考：ナイcomed社製品 計(概算) (*2) (百万ユーロ)	欧州/ 新興国	2,918	2,838	2,984	3,126	142	<+ 4.8>
為替レート	USD	93円	86円	79円	82円	+ 3円	
	EUR	131円	113円	109円	106円	△ 3円	
	参考：EUR (12月決算)	130円	116円	-	-	-	

*1: 12年6月に買収したURLファーマ社の製品。09年度から12年5月までは、URLファーマ社買収前のコルクリス売上高を表示している(4-3月ベースに組み替え後)。

*2: 11年9月末に買収したナイcomed社の製品。09年度から11年9月までは、ナイcomed社買収前の当該品目売上高を表示している(09年度及び10年度については1-12月ベース、11年度については4-3月ベースに組み替え後)。

特殊要因・特別損益の内訳



(億円)
(マイナスは益)

特殊要因・特別損益の内訳	11年度 実績	12年度 実績	
<売上原価> 棚卸資産のステップアップの費用化	555	75	
URLファーマ社・マルチラブ社買収	—	75	
<一般管理販売費・研究開発費> 無形固定資産償却費	717	1,030	
TAP社統合	99	69	2012年まで償却
ミレニウム社買収	375	390	2018年まで償却
ナイコメッド社買収	234	478	2026年まで償却
URLファーマ社買収	—	82	2029年まで償却
<一般管理販売費> のれん償却費	222	344	
ミレニウム社買収	120	125	2028年まで償却
ナイコメッド社買収	91	185	2031年まで償却
URLファーマ社買収	—	19	2028年まで償却
特殊要因が営業利益に与える影響	1,495	1,450	
<営業外費用> 企業買収に起因する営業外費用	—	63	
<特別損益>	179	△ 165	
投資有価証券売却益	—	△ 531	
政府助成金	—	△ 228	
法人税等還付加算金	—	△ 151	
固定資産売却益	△ 176	△ 40	
減損損失	—	436	
事業構造再編費用	355	252	
製品回収関連損失	—	96	
特殊要因・特別損益が税金等調整前純利益に与える影響	1,673	1,347	
上記に係る税金・税効果影響	△ 433	△ 240	
プレパシッド取引に係る還付税金	—	△ 574	
特殊要因・特別損益が純利益に与える影響	1,240	533	

うちナイコメッド社: 663

EBITDAの内訳



(億円)

EBITDAの内訳	11年度 実績	12年度 実績
経常利益	2,703	1,132
+ 無形固定資産償却費(企業買収に起因するもの)	717	1,030
+ のれん償却費(企業買収に起因するもの)	222	344
+ その他償却費(上記以外)	565	636
+ 支払利息	19	33
+ その他	—	63
EBITDA(特別損益除き)	4,226	3,239

2012年度に実施した企業買収の概要



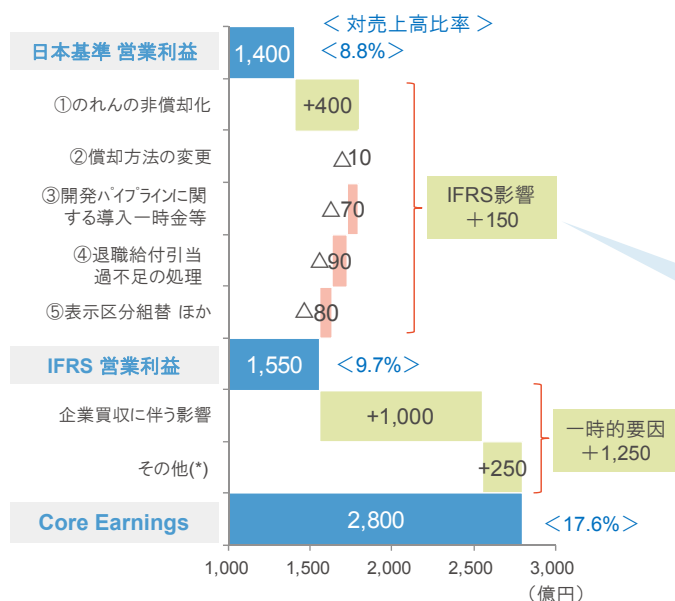
買収年月	会社名	買収時点における会社概要・買収価額	効果
12年6月	URLファーマ社	資本金 : 1千米ドル 資本剰余金 : 1,870千米ドル 所在地 : 米国 ペンシルベニア州 フィラデルフィア 買収価額 : 一時金800百万米ドル 2015年以降の一定期間、業績に応じたロイヤルティを支払う	【米国における痛風領域フランチャイズの強化】 ▶ 急性期の痛風治療剤である「コルクリス」を獲得 ▶ 「コルクリス」と高尿酸血症治療剤「ユーロリック」との相乗効果を発揮 ▶ 同社後発品事業は13年2月にCaraco社に譲渡済み
12年7月	マルチラブ社	資本金 : 41,750千BRL 所在地 : ブラジル リオ・グランデ・ド・スル州 São Jerônimo 買収価額 : 一時金500百万BRL 今後、最大40百万BRLのマイルストーンを支払う可能性あり	【ブラジルにおける販売基盤の強化】 ▶ ブランドジェネリック、総合感冒薬「マルチグリップ」等のOTC製品を獲得 ▶ 高い経済成長を示している地方都市における強固な販売網を獲得 ▶ ブラジルでの医薬品売上高でトップ10に入り、多様な医療ニーズに対応
12年10月	リゴサイト社 (現・武田ワクチン (モンタナ)社)	資本金 : 10千米ドル 資本剰余金 : 1,372千米ドル 所在地 : 米国 モンタナ州 ボーズマン 買収価額 : 一時金60百万米ドル 将来、開発の進捗に応じたマイルストーンを支払う可能性あり	【グローバルなワクチン事業の強化】 ▶ 臨床開発段階にある世界で唯一のノロウイルスワクチンを獲得 ▶ ウィルス様粒子(Virus-Like Particle: VLP)技術の導入 ▶ RSウイルスワクチン、インフルエンザウイルスワクチン、ロタウイルスワクチンの前臨床パイプラインを獲得 (2013年3月にリゴサイト社は武田ワクチン(モンタナ)社に社名変更)
12年11月	エンボイ社	資本金 : 8,000千米ドル 所在地 : 米国 フロリダ州 ジュピター 買収価額 : 一時金と将来支払う可能性のあるマイルストーンを含め最大で140百万米ドル	【創薬基盤の強化】 ▶ 疾患に関与する細胞に発現する新規創薬標的の同定を可能にする bacTRAP® 技術を獲得 ▶ パーキンソン病や統合失調症に伴う認知機能障害を対象とした中枢神経系の前臨床パイプラインを獲得

2013年度 連結業績の見通し

～日本基準営業利益からIFRSベースの営業利益、Core Earningsへの調整



IFRSベースの13年度営業利益、およびCore Earningsへの調整



(*)：その他の主な内容・・・ライセンスにかかる無形資産の償却等

当社の損益に影響を及ぼす主要な差異

項目	日本基準	IFRS
①のれんの償却	▶ 20年以内で償却	▶ 償却せず、毎期減損テストを実施
②有形固定資産の償却方法	▶ 海外子会社を除き主に定率法 ▶ 特定目的の研究開発用設備は取得時に一括費用処理	▶ 定額法に統一 ▶ 特定目的の研究開発用設備は資産計上し、定額償却
③開発パイプラインに関する導入一時金、マイルストーン等の処理	▶ 取引発生時に研究開発費処理	▶ 無形資産に計上し、承認取得後、上市した時点から定額償却 ▶ 開発中止の場合、将来CFが悪化した場合等に減損テストを実施
④退職給付引当過不足の処理	▶ 発生時から5年間で償却(13年度は益償却)	▶ 損益認識せず、発生時に全額その他包括利益として認識
⑤営業外損益、特別損益の表示区分組替	▶ 本業以外の損益は営業外損益として、一時的・突発的な損益は特別損益として認識	▶ 営業外は金融損益に限定<例>支払/受取利息、有価証券売却益、受取配当等 ▶ 金融損益を除く営業外損益、特別損益の多くが営業損益に組替わる(営業利益より上の損益として認識される)



バランスシートのスリム化

事業上必要のない投資有価証券、遊休不動産の処分

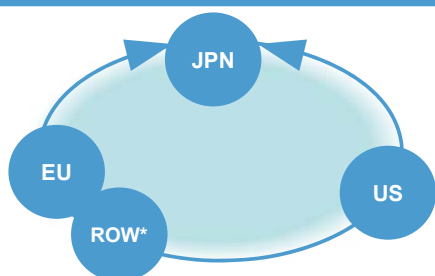
- 12年度実績: 約570億円 (税引前利益ベース)
- 13年度以降: キャッシュフロー、株式相場の水準等を見極めた上で適切な売却時期を検討

運転資本の圧縮

- 継続的な取組みを通じ、中期的に欧米製薬大手並みの「運転資本月数3ヶ月未満」を目指す

フリーキャッシュフローの最大化

キャッシュマネジメントの強化



グローバル資金管理体制の強化

- 日米欧(アジア・中南米地域含む)の財務管理拠点を通じて、各地域の資金をグローバルに一元管理する体制を整備、強化
- 各地域の余剰資金をタイムリーに、日本本社に集中

*ROW: rest of the world (アジアや中南米地域)



2012年度研究開発実績および 中期成長戦略について

取締役/チーフ メディカル&サイエンティフィック オフィサー
山田 忠孝

2013年5月9日



意義

タケダは、患者さんのアンメットメディカルニーズに応えるために、研究開発資源を投入し、革新的な医薬品の創出に挑戦し続けます

理念

- 患者さんのアンメットメディカルニーズに応える医薬品を提供することで、医薬品業界のリーダーとしての使命を果たします
- 成長の源泉である研究開発組織を変革し、業界トップレベルの研究開発生産性を目指します



2012年度の振り返り

2012年度の振り返り 承認取得および申請した開発品



				Ph-1	Ph-2	Ph-3	申請	承認
SYR-322 SYR-322/PIO ¹ SYR-322/MET ²	ネシーナ® オセーニ® カザーノ®	糖尿病	米				→	
SGN-35	アドセトリス®	再発・難治性のホジキンリンパ腫 再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫	欧				→	
ferumoxytol	リエンゾ®	成人における慢性腎疾患に伴う鉄欠乏製貧血	欧				→	
TAK-085	ロトリガ®	高脂血症	日				→	
risedronate	ベネット®	骨粗鬆症(月一回投与製剤)	日				→	
AG-1749	タケプロン®	ヘリコバクターピロリ 除菌(3剤併用療法)	日				→	
Lu AA21004	プリンテリックス®	大うつ病	米			→		
naltrexoneSR/ bupropion SR	コントレイブ®	肥満症	米			→		まもなく 申請予定
MLN0002		潰瘍性大腸炎、クローン病	米			→		まもなく 申請予定
MLN0002		潰瘍性大腸炎、クローン病	欧			→		
SYR-322 SYR-322/PIO ¹ SYR-322/MET ²		糖尿病	欧			→		
lurasidone		統合失調症	欧			→		
ATL-962		肥満症	日			→		
AG-1749	タケプロン®	低用量アスピリンとの合剤	日			→		
BLB-750		インフルエンザパンデミックの予防	日			→		
SGN-35		再発・難治性のホジキンリンパ腫 再発・難治性の全身性未分化大細胞リンパ腫	日		→			

52

¹Pioglitazone (ピオグリタゾン)、²Metformin(メトホルミン)

武田薬品工業株式会社

2012年度の振り返り Ph-3試験実施中の主なパイプライン



TAK-875 <fasiglifam>	糖尿病	Ph-3試験(シタグリプチンとの直接比較試験、メトホルミン、スルホルニルウレア、DPP4阻害剤との併用試験、心血管イベントの評価試験)を実施中	グローバル
TAK-700 <orteronel>	前立腺癌	転移性去勢抵抗性前立腺癌患者の患者(化学療法後および化学療法前)の試験を実施中 非転移性去勢抵抗性前立腺癌患者を対象にステロイドを併用しない治療レジメンによるP-2試験は完了、2013年度にPh-3 試験を実施予定	グローバル
MLN9708 <ixazomib>	多発性骨髄腫 再発・難治性の原発性ALアミロイドーシス	すべて経口治療薬で行う治療レジメン(レプリミド/デキサメタゾン)によるPh-3試験を実施中	グローバル
MLN8237 <alisertib>	再発・難知性の末梢性T細胞性リンパ腫	他の血液癌、固形癌を対象とした試験も実施中	米・欧
ADCETRIS® <brentuximab vedotin>	自己幹細胞移植後のホジキンリンパ腫 再発性皮膚T細胞性リンパ腫 ホジキンリンパ腫(フロントライン適応) 成熟型T細胞性リンパ腫(フロントライン適応)	再発性皮膚T細胞性リンパ腫、成熟型T細胞性リンパ腫を対象としたPh-3試験において、CD30の発現を特定するための診断薬をVentana Medical Systemsと共同開発中	欧
SYR-472 <trelagliptin>	糖尿病	連日投与のDPP4阻害剤との比較試験も含めたPh-3 試験を実施中(SYR-472は週1回投与)	日
TAK-438 <vonoprazan>	酸関連疾患(胃食道逆流症、消化性潰瘍等)	ランソプラゾールとの直接比較試験も含めたPh-3試験を実施中	日

53

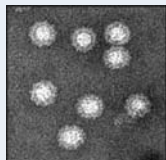
武田薬品工業株式会社

2012年度の振り返り 共同研究および事業開発活動



LigoCyte (現在 武田ワクチン(モンタナ)Inc.)

- 唯一臨床段階にあるノロウイルスワクチン
- 前臨床段階にあるロタウイルスワクチン、RSウイルスワクチン(respiratory syncytial virus:呼吸器合胞体ウイルス)、インフルエンザワクチン
- ウィルス様粒子(Virus-Like Particle: VLP)技術を獲得



LigoCyteのノロウイルスVLP

Envoy Therapeutics

- 技術特定の細胞型に発現するタンパク質生成遺の可視化、抽出を可能にするbacTRAP技術
- パーキンソン病、統合失調症などを対象とした前床パイプラインを獲得



染色されたマウス脳内のたんぱく質



BC Cancer Agency
遺伝子解析を利用した創薬標的探索に関する共同研究



Adivinus Therapeutics
炎症性・中枢神経系・代謝性疾患を中心とした疾患領域における新規創薬標的を対象とした共同研究



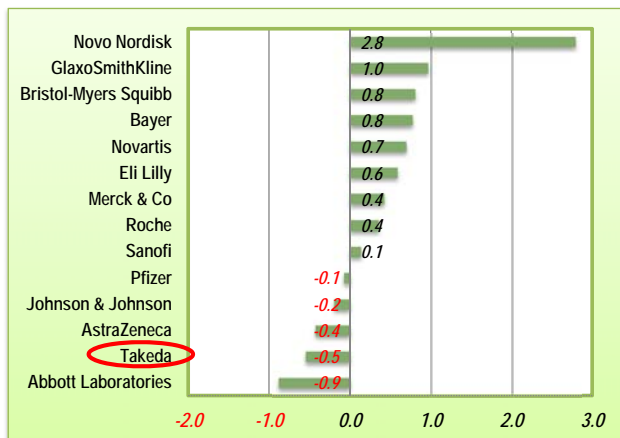
Resolve Therapeutics
全身性エリテマトーデスおよびその他の自己免疫疾患治療のための新薬候補物質を対象とした共同研究開発

2012年度の振り返り 研究開発生産性



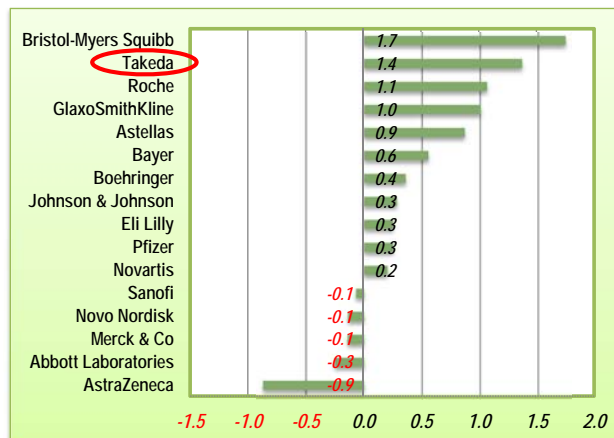
2008年末-10年末の2年間の研究開発生産性の指標 (2011年8月23日時点データを使用)

データソース: Parexel Biopharmaceutical R&D statistical sourcebook
Evaluate Pharma



2009年末-11年末の2年間の研究開発生産性の指標 (2012年11月14日時点データを使用)

データソース: Parexel Biopharmaceutical R&D statistical sourcebook
Evaluate Pharma

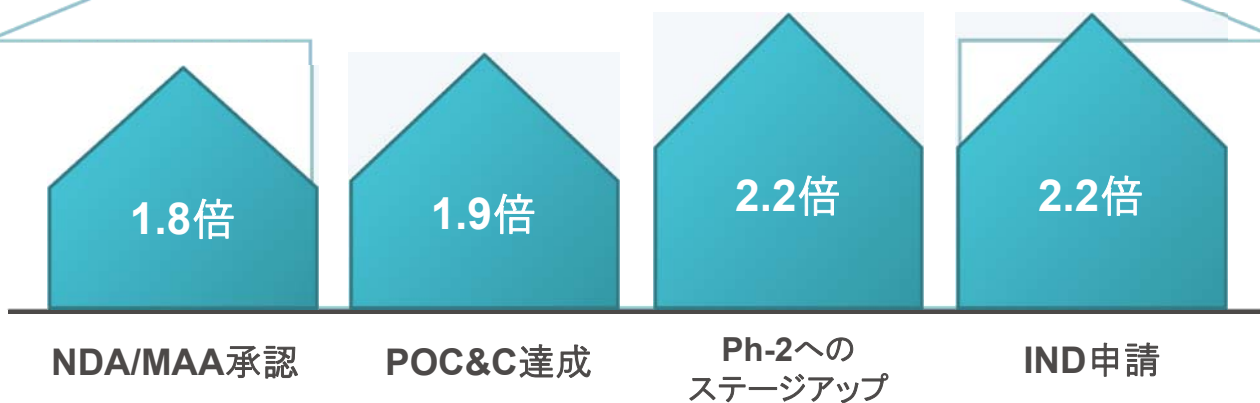


注記: 指標の算出方法: Ph-1以降のパイプラインのeNPV(予想正味現在価値)値を使用。2010年末時点のeNPV値から2008年末時点のeNPV値を差し引いた値に2009年-2010年の間に上市された製品のNPV値を足し、eNPV変化量(ΔeNPV値)を算出。そのΔeNPV値を2009年-2010年間のR&D費用で割り、研究生産性指標を算出した。

注記: 算出方法: Ph-1以降のパイプラインのeNPV(予想正味現在価値)値を使用。2011年末時点のeNPV値から2009年末時点のeNPV値を差し引いた値に2010年-2011年の間に上市された製品のNPV値を足し、eNPV変化量(ΔeNPV値)を算出。そのΔeNPV値を2010年-2011年間のR&D費用で割り、研究生産性指標を算出した。



2012年度、研究開発生産性の大幅な向上達成



2012年度期初に設定したそれぞれの価値創出目標(予想ピーク販売高)と比較した達成度にて提示



中期成長戦略における研究開発活動の取り組み



Ph-2ステージ以上のパイプライン

代謝性・循環器系疾患

- ・ネシーナ
- ・オセーニ (リオベル)
- ・カザーノ
- ・コントレイブ
- ・ATL-962
- ・TAK-875
- ・SYR-472
- ・プロプレス/CCB*
- ・イダービ
- ・イダバクロー
- ・アジルバ/CCB*
- ・ロトリガ
- ・TAK-428

癌

- ・ベルケイド
- ・リュープリン
- ・アドセトリス
- ・MLN9708
- ・MLN8237
- ・TAK-700
- ・motesanib
- ・AMG 386

中枢神経系疾患

- ・プリンテリックス
- ・lurasidone
- ・AD-4833/TOMM40
- ・TAK-375SL
- ・ソブリマ

免疫・呼吸器系疾患

- ・ダクサス
- ・ダクサス併用
- ・veltuzumab

消化器・腎臓系・その他疾患

- ・タケプロン
- ・タケプロン/LDA**
- ・デクスラント
- ・リエンゾ
- ・アミティーザ
- ・ベネット
- ・MLN0002
- ・TAK-438
- ・TAK-385

ワクチン

- ・BLB-750
- ・TAK-816
- ・TAK-361S
- ・ノロウイルス ワクチン

*Calcium Channel Blocker(カルシウムチャネル拮抗剤)
** Low-dose aspirin(低用量アスピリン)





短期:豊富な開発後期パイプラインの価値最大化

承認取得に向けた確実な取り組み

Lu AA21004
(vortioxetine)

コントレイブ

MLN0002
(vedolizumab)

lurasidone

Ph-3ステージ開発品への注力

TAK-875
(fasiglifam)

TAK-438
(vonoprazan)

MLN9708
(ixazomib)

TAK-700
(orteronel)

価値ある開発後期パイプラインの進捗促進

AD-4833/TOMM40

ノロウイルスワクチン



中期:3つの戦略による開発中期パイプラインの拡充

有望な前臨床および開発初期パイプラインの開発加速

TAK-385

MLN8237

MLN4924

- AMPA ポテンシエーター
- CD38 受容体抗体

Mono-okiプロジェクトによる現行・中止パイプラインにおける新規効能への応用機会の追求

糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、喘息、特発性肺線維症、統合失調症などの効能の可能性を検討

事業開発

POC&C検討段階にあるパイプラインへの重点的取り組み

Inviragen社の買収

世界の半数の人が脅威に曝されているデング熱に対するワクチンを獲得

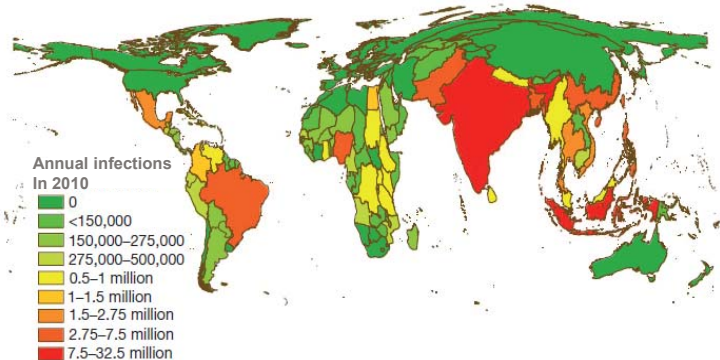


新興国市場で最も優先順位の高い
ワクチンパイプラインの獲得

- デング熱 (第II相)
- エンテロウイルス71(第I相)¹
- チクングニヤ熱(前臨床)

LigoCyte社の研究開発力に続き、
さらに不活化及び生ワクチンの研究開
発力を獲得

デング熱はアジア、ラテンアメリカ及びアフリカで流行して
おり、蚊が媒介するウイルス感染症として世界で最も重
要な疾病である²



デング熱のグローバルでの年間推定患者数は

- 4億人の人がウイルスに感染
- 1億人がデング熱を発症
- 50万人が入院
- 2万人が死亡し、そのほとんどが小児



inviragen

¹エンテロウイルス71 (EV71)によって引き起こされる手口足病

² <http://www.who.int/csr/disease/dengue/impact/en/>

Source of graphic: Bhatt, S et al. *Nature* Vol. 496, 504-507 (2013)

研究開発生産性の向上



長期: 創薬研究能力の競合優位性、生産性の強化

競争力強化に必須の研究生産性の大幅な向上達成(2012年度)

各候補化合物の研究予算
の効率的削減

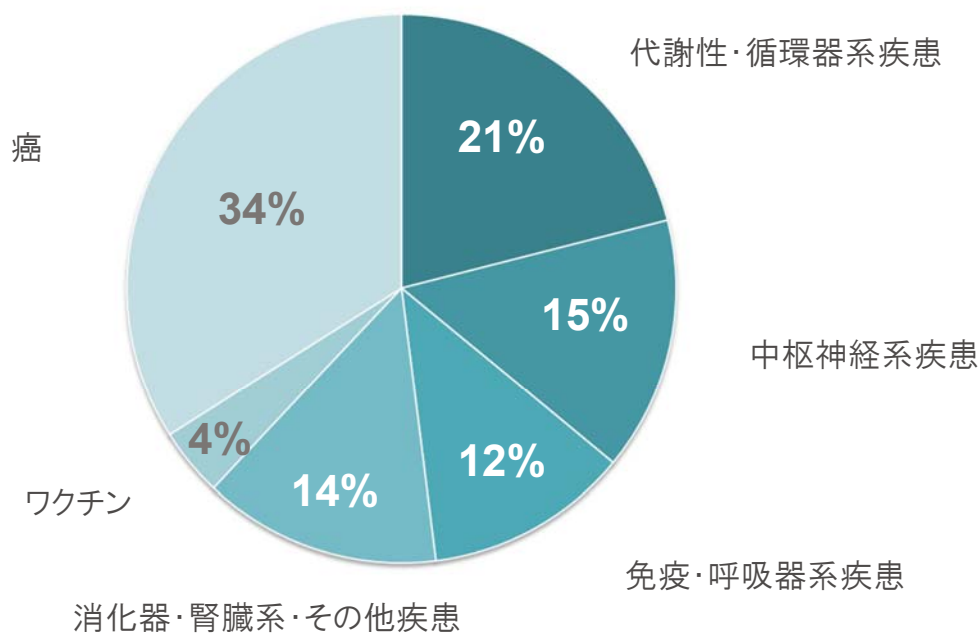
Fast to IND
(候補化合物選定からINDまでの非臨床研究
プロセスの最適化・期間短縮)

研究競争力、生産性のさらなる強化に向けた
体制構築への継続的な取り組み

Drug Discovery Units
機能のさらなる強化

Envoy、Advinus、
Resolveの創薬研究能力
の最大活用

Fast to Candidate
(候補化合物選定までの
最適なプロセス検討)



パイプラインの承認取得予定タイムライン



	FY13	FY14	FY15	FY16 - FY17
日	azilsartan (TAK-536) CCB ¹ lansoprazole (AG-1749) LDA ² cetilistat (ATL-962) influenza vaccine (BLB-750) brentuximab vedotin (SGN-35)	trelagliptin (SYR-472) vonoprazan (TAK-438) vortioxetine (Lu AA21004)	fasiglifam (TAK-875) ixazomib (MLN9708) orteronel (TAK-700) leuprorelin 6M (TAP-144-SR) Hib vaccine (TAK-816)	relugolix (TAK-385) vedolizumab (MLN0002)
米	vortioxetine (Lu AA21004)	vedolizumab (MLN0002) orteronel (TAK-700)	ixazomib (MLN9708) alisertib (MLN8237)	fasiglifam (TAK-875) ramelteon (TAK-375) SL
欧	alogliptin (SYR-322) alogliptin MET ³ alogliptin PIO ⁴ dexlansoprazole (TAK-390MR) lurasidone	azilsartan (TAK-491) CLD ⁵ vedolizumab (MLN0002)	ixazomib (MLN9708) orteronel (TAK-700)	fasiglifam (TAK-875)

新興国および北アジアにおいては以下のパイプラインについて、順次上市を予定しています。
 alogliptin、azilsartan、brentuximab vedotin、MEPACT、ramelteon、dexlansoprazole、DAXAS

注：いくつかの導入品については、導入元の会社の開示方針により、本一覧表で開示していません。

¹ カルシウムチャネル拮抗剤(アムロジピン)、² 低用量アスピリン、³ メトホルミン、⁴ ビオグリタゾン(アクトス)、⁵ クロルタリドン

自社品

導入品

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。



武田薬品工業株式会社